

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第243号 2015年1月13日

～お茶の水女子大学は2015年に創立140周年を迎えます～



お茶の水女子大学  
創立 140 周年

写真提供：Ochanomizu University Library

OCHADAI GAZETTE Spring, 2015

## 実行力と使命感をもって

### CONTENTS

#### TOPICS

学長からのメッセージ…………… 1-2  
「創立140周年を記念して」

140周年記念特集①…………… 3-4  
附属図書館のサービスと設備[増築計画中]

140周年記念特集②…………… 5-6  
グローバル教育センターの取り組み  
グローバル人材育成への挑戦

学生のアクティビティ…………… 7-8  
● SCC寮祭 ● 徽音祭によせて

教員紹介…………… 9  
● 最上 善広先生  
(人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系)

卒業生紹介…………… 10  
● 小西 雅子さん(家政学部(現生活科学部)卒業)

附属学校園からのお知らせ…………… 11-12

キャンパス点描…………… 13-14

● 「ダイバーシティ・リーダーシップ-4大陸の駐日女性大使を迎えて-」(平成26年度 A-WiL国際シンポジウム)を開催しました

● 知と文化の交流拠点 Interactive Commons (共通講義棟2号館部分)が整備されました

● お茶の水女子大学と奈良女子大学とが「理系女性教育開発共同機構」等を設置し、理工系女性リーダー育成拠点を構築します



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# 学長からのメッセージ

## 「創立 140 周年を記念して」

今年がお茶の水女子大学にとって、そして皆様にとりましてよい年になりますようお祈り申し上げます。

初秋のある晴れた日に東京女子高等師範学校を卒業された先輩のお一人が学長室を訪ねて下さいました。女高師で受けた教育がいかに素晴らしいものであったか、どれほど役立ったかについてご自身の経験をもとにご説明くださり、その教育に対する感謝のお気持ちを伝えにいらしてくださったのです。

また、やはり女高師の卒業生で、奨学金の授与式に遠路お出でくださったお一人は、女高師で培われた知識を活かして現在でも教育に携わっていること、学生には是非とも充実した学生生活を送ってほしいと思っていることを穏やかに語って下さいました。その話に聞き入っていた学生の真剣な表情は強く印象に残っています。

女高師のその教育は本学の教育基盤となり、歴史を経て、本学の社会的評価を確かなものとしてきました。



今年 2015 年は、本学創立 140 周年の記念すべき年に当たります。

本学の創始である東京女子師範学校は、日本で初めての女性のための高等教育機関として 1875 年に設置されましたが、設立の趣旨は次のようなものでした。

「女子の教育が男子と優劣の差が生じることのないよう女子師範学校を設ける」(文部少輔による太政大臣宛設立建議書[明治 7 年 1 月]を受けての布達)

その後、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校等と名称を変えつつもその教育理念は貫かれ、それぞれの時代にふさわしい教育体制を整え、高い専門性をもって社会をリードする女性を育成し続けてきました。

女高師の教育が女子教育の必要性に対する強い認識の下になされてきたことは、卒業生の会である桜蔭会が関東大震災の翌年に新たな女子教育の場として桜蔭学園を創設したことに顕著です。2011 年 3 月の東日本大震災から今年で 4 年目を迎えますが、被災地の現状から考えても、当時の卒業生の実行力と使命感に心打たれます。それだけではなく、女高師の卒業生の中に高等教育機関の設立にかかわった人々が多いことも本学が創設以来の使命を確かに果たしてきたことの証しといえます。また、教育だけでなく研究の分野においても、女性研究者として先駆的な役割を果たしてきた方々は多く、保井コノ博士、黒田チカ博士、辻村みちよ博士、湯浅年子博士等はその象徴です。

創設から 74 年後の 1949 年、本学は新制大学のお茶の水女子大学に、さらにその 55 年後、2004 年には国立大学法人お茶の水女子大学となりました。

法人化の際に掲げたミッションは、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する」というものです。

法人化後 10 年が過ぎましたが、法人化によって大学は自律的な運営と時代の激しい変化への迅速な対応が求められるようになり、それに対して本学では教育体制を新たに整えてきました。例えば、社会的課題に対して多領域か





10月28日開催「ダイバーシティ・リーダーシップ -4大陸の駐日女性大使を迎えて-」(平成26年度A-wiL国際シンポジウム)

ら探究する方法を学ぶ「21世紀型文理融合リベラルアーツ」教育や、専門の学び方を学生自らが選択する「複数プログラム選択履修制度」などです。これらは、「深い教養」と「広い専門性」を身につけるための教育システムです。この制度で学んだ最初の学生達がこの春卒業します。近い将来、本学で学んだ学生達が社会の中核を担い、この教育の成果が顕わになることを期待しています。

今、女性の社会的な活躍が重視されていますが、これからは今まで以上にグローバルな視点をもってリーダーシップを発揮する専門性の高い能力が必要です。本学の卒業生は教育や研究の分野に限らず、自ら起業し、あるいは企業の管理職に就いて国際的にも活躍していますが、さらに女性が活躍できる環境を整えることは現在の国立の女子大学としての重要な役割です。

そこで、本学では近年とくにグローバル教育とリーダーシップ教育に力を入れてきました。平成27年度に、この実績を活かして新たに「グローバル女性リーダー育成研究機構」を設置します。この機構はグローバルリーダーシップ研究所とジェンダー研究所から成ります。さらに、奈良女子大学と共同で、大学院に理工系の専攻を設置する準備を開始いたしました。この専攻では新たな工学の在り方を開拓し生活の視点を活かすことのできる工学系の専門家の育成を目指します。どちらも、この時代に国立の女子大学が果たすべき役割として、昨年文部科学省から承認されたもので、創立140周年を機に本学の将来に一つの道筋をつけることになりました。

昨年から、創立140周年記念事業を開始し、「海外留学支援奨学基金」と「附属図書館の増築」を目的とする募金事業も行っています。

本学の学生アンケート調査によれば、海外留学を希望している学生の割合はきわめて高く約7割にもなります。そこで、海外留学のための経済支援として設置したのが海外留学支援奨学基金です。また、附属図書館の増築は、図

書資料の集中化によって利用の利便性を高めることと、図書館をこれまで以上に交流の場として充実させることを意図しています。

この基金によって本学の教育環境はこれまで以上に充実し、その環境で学んだ学生がその成果を今後社会に還元して行くことと信じています。

大学は、社会とともにあることを常に意識している必要があります。本学では「共にあること」を基本的な姿勢としてきました。そして今本学には「コモンズ」と名のつく空間が4か所できています。まず、附属図書館の改装によって他大学に先駆けてLearning Commonsを創り、2011年には新学生寮Students Community Commons (SCC) を新設しました。このどちらも特徴的な機能を備え、他大学の先駆けとなったモデルとして注目されました。さらに2014年にはLanguage Study CommonsとInteractive Commons (Ocha-Hall) が開設されています。これらは、大学が社会と共に、他者と共に、他の文化と共に在り、共に発展することを象徴する空間でもあり、この理念がこれからも生き続けることを願っています。

そして、本学で学んだ学生には、140年の伝統に裏付けられ、社会と共にあり続けてきた本学の教育を教授されたことを自らの力として社会で活躍されることを確信しています。

お茶の水女子大学の卒業生のご活躍を期待し、本学が国立の女子大学としてさらに発展することを心から願っております。

創立140周年を迎え、本学の未来がさらに輝かしいものとなりますように。

2015年春

国立大学法人 お茶の水女子大学長

羽入 佐和子

学長からのメッセージ  
「創立140周年を記念して」

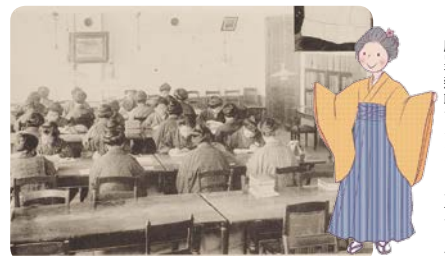


# 140周年記念特集 — その ① 時間と空間を超える知的 附属図書館のサービスと設備

## お茶大図書館の過去・現在・未来

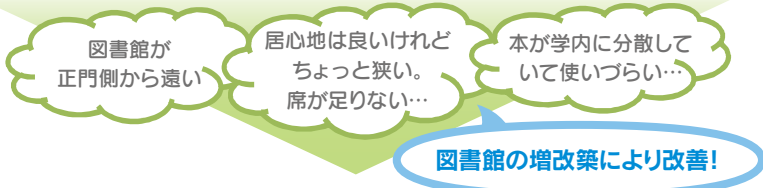
### お茶大図書館の略歴

- 明治 8年 (1875) 東京女子師範学校開校書籍縦覧室設置
- 昭和 8年 (1933) 大塚の地に大学が移転した翌年に図書館竣工
- 昭和 34年 (1959) 現在位置に図書館移転
- 昭和 47年 (1972) 図書館増築
- 平成 18年 (2006) 図書館理念※) 制定、翌年～図書館改修・改革
- 平成 25年 (2013) 新図書館構想に着手



女高師の図書室大正8年(1919)

歴史資料館キャラクター「ちせちゃん」



現在の附属図書館

### 新図書館構想が目指すもの -「知の創造、交流、循環」-

- コミュニティスペース拡充とキャンパス内バリアフリー化  
正門側からのアプローチが格段に便利に  
卒業生の皆さまが集えるコミュニティスペースも充実
- アクティブラーニングスペースの拡充  
イベント実施時にも、グループ学習や個人のスペースを十分に確保
- 全学蔵書の集約化  
全学24箇所分散した蔵書を図書館に集約化し、利便性を向上



附属図書館学生キャラクター「キャンクラちゃん」

附属図書館増築イメージ図 (作図: 松田研究室)

## 図書館魅力スポット① ラウンジ&キャリアカフェ (1F)



グローバル  
教育センターとの  
コラボレーション  
留学帰国  
報告会

### 普段は…

個人やグループの学習スペースとして活用

### イベント時は…

様々な分野のイベントで活用

- 授業成果の発表会、留学帰国報告会、就職支援関連など

## 図書館魅力スポット② グローバル・スタディ・コーナー (2F)



毎週水曜日  
留学経験者  
による相談会  
実施中

### 学生の海外留学支援の一環で 語学学習のリソースを集中化!

- 2014年に設置された、語学学習用スペース
- 様々な言語による語学学習用の図書を配架
- ランゲージ・スタディ・ commonsの語学用PC設置
- ちょっとしたチャットができるテーブルと椅子

共に学び共に成長する  
場として人気のスペース

※) 附属図書館の理念: お茶の水女子大学附属図書館は、時間と空間を超える知的交流の



## [増築計画中]

卒業生の方  
修了生の方  
必見!

## 私のお茶大図書館

## 活用法

## 図書館を活用している卒業生へのインタビュー

お茶大女性ビジネスリーダー育成塾(徽音塾)を受講されている卒業生のお二人に、お話を伺いました。



曲田 貴也子さん

2013年卒業 文教育学部(仏文)

## Q お茶大に入ったキッカケは?

短大時代にフランスに一年留学しましたが、もっと勉強したくなってお茶大に編入学しました。お茶大に対するイメージは、真面目で熱心なこと。中高が女子校だったこともあり、お茶大を選びました。入ってみて、とてもじっくりして居心地がよかったです。

## Q 在学中の図書館利用は?

図書館はよく使いました。一つは、レポート作成のため。クワイエット・スタディスペースをよく使いました。卒論の時は、個人席でじっくりと。本を積み上げ、PCを図書館で借り、足りない資料は取り寄せてもらって……。就職活動の頃は、DVDコーナーで「プロフェッショナル：仕事の流儀」をよく観ました。そして三つ目は、お茶大マーケティング講座で、キャリアカフェを使っていました。フル活用していますね!(笑)

## Q 社会人としてお茶大図書館に期待することは?

社会人として必要な知識は、学生のときとは違います。書店に行っても似たような本が沢山あって、全部は買えません。

そんな時は図書館が使えると良いですね。ただ、家が近くないとそんなには来られません。借りるのはいいけれど、返すのが大変。なにか使いやすい仕組みがあれば嬉しいです。それから、卒業生と在校生が繋がれる機会があると良いと思います。



大沼 友美恵さん

2008年卒業 文教育学部(英米文学)

## Q 在学中に図書館が変わったと実感することはありましたか?

昔はあまり立ち寄りたくなる雰囲気ではありませんでした。1階は暗くて、いきなり階段を上がって2階へ行く感じで……。

今はすごく親しみやすいですね。

就職活動の時期は1階のラーニング commonsのPCで、面接のエントリーをしたり、企業との電子メールのやり取りなどでよく使っていました。2階では、窓際の個人スペースをよく使いました。一人で集中できるし、居心地が良かったです。人気があるので、座れないこともありました!(笑)

## Q これからの学修にはどんなスペースが必要でしょうか?

徽音塾でもそうですが、グループディスカッション等は主体的な学びに有効です。でも、「能

動的」に自分の意見を発言したりするためには、その前に一人でじっくり考えたり調べたりすることも必要です。個人のスペースも大切にしてほしいですね。

## Q これからのお茶大図書館に期待することは?

地域の方など、いろいろな人が使えるといいですね。徽音塾で知り合った方が、「他の図書館には無い専門的な本がお茶大図書館にあって助かった」と言っていました。

学生に対しては、「こういうサービスをやっています!」という情報が行き渡るようにしてほしいです。

これからは、在学中にあまり足を踏み入れなかったエリアの本も読んでみたいです。

卒業生にとってのコミュニティスペースは、久しぶりに会う友人と図書館で待ち合わせをするという使い方も素敵ですね。

(2014年10月25日図書館ラウンジにて)



## 卒業生・修了生の方向けサービス&amp;ニュース

## 図書館利用者カードが作れます!

- 閲覧・複写・貸出サービスがご利用になれます
- 貸出は、5冊2週間です
- 受付：月～金 9:00～17:00 その場で発行  
上記以外の時間に受付けた場合は、翌開館日以降の引渡し  
(現住所が確認できるものを持参)  
連絡先：lib-serv@cc.ocha.ac.jp 03-5978-5840 (TEL)

## ホームカミングデー 2014 (2014/5/31)

多くの卒業生が図書館においでくださいました

- 「お茶大生が今読みたい本200冊」ご寄贈受付(右写真)、卒業アルバム特別展示やピアノコンサート、LiSA (Library Student Assistant) によるポップ作成実演が人気でした

附属高校同窓会作楽会会員様  
図書館ツアー (2014/10/7)

60名以上の方がご参加くださいました

- 図書館内をご見学ののち、全員に図書館利用者カードをお渡ししました



● お知らせ ●  
創立百四十周年  
記念特別展

場所：歴史資料館  
(大学本館 121/136)  
日時：2015年1月5日(月)  
～16日(金)

母校の図書館に  
ぜひ足をお運びください



# グローバル教育センターの取り組み



グローバル教育センターは6年前に、海外から受け入れた外国人留学生に対し修学および生活に必要な教育・指導・助言を行うこと、国内外におけるさまざまな国際交流を推進すること、本学学生を海外留学に派遣することなどを目的として設立されました。現在は、南門からほど近い学生センター棟の3階にあり、海外からの留学生や、留学を志す本学の学生が情報を収集したり、留学についての相談をするために、足繁く訪れています。

グローバル教育センターとは？

## グローバル教育センターのミッション

2012年、本学は文科省によるグローバル人材育成推進事業に採択されてグローバル人材育成推進センターが始動しました。以来、当センターは、本学グローバル人材育成推進センターと

連携して、**海外派遣留学支援**（海外協定校との交換留学生の派遣業務、海外短期研修の企画運営、本学での日本語サマープログラムの企画運営）**外国人留学生支援**（本学に留学する海外からの

留学生の受入業務）**協定締結**（海外の大学および研究教育機関との協定開拓および締結業務）を中心に活動しています。

## 世界に羽ばたく学生たちのサポート



期交換留学経験者相談会」さらに留学に興味はあっても準備の手順がわからずなかなか踏み出せない学生のために「留学カリキュラムデザイン相談会」（毎週月曜日）も開催しています。

域のトップ大学で勉強しています。できるだけ多くの学生を希望する大学に派遣するべく、新規協定校開拓・拡大に取り組んでおり、協定の内容も実質的に充実したものとなるよう努力しています。

### 海外派遣留学支援

在学中に留学を希望する本学学生には、留学前後の相談や、情報提供、語学や異文化適応などの留学準備への支援を行い、海外への長期・短期留学や語学研修に送り出しています。そして、学生の夢をかなえるべく、本学国際課と協働して、学内外の様々な奨学金情報の案内もしています。

また、留学関連の情報が行き渡るように、新たな取り組みとして図書館共同スペースを有効利用しています。あらゆる分野・専攻の学生が訪れるこのスペースを会場に、「帰国報告会」「長

### 外国人留学生支援

外国人留学生支援としては、本学に留学してくる外国人留学生に対し、受け入れから帰国までの一貫した教育指導およびサポート、生活相談業務を行っています。留学生向けの日本語の授業はもとより、日本文化のワークショップ（着付け、生け花、歌舞伎鑑賞等）などを主催して好評を得ています。

### 協定締結

本学と交換留学協定を結ぶ大学や研究機関は現在23か国・地域で、61機関に上っています。2014年度は37名が、半年～1年の長期交換留学生として、欧米、アジア等広範囲にわたり、各地

このほかにも、本学学生と留学生との国際交流プログラムを実施するほか、海外の大学とTV会議を通して研究交流をはかったり、ほかにもさまざまな説明会をはじめ国際交流セミナーやイベントを、図書館や学生・キャリア支援課、外国語教育センターとも連携して企画し、国際的な知の環境を提供するような活動を心がけています。





# み グローバル人材育成への挑戦

## 奨学金を活用して留学した学生の声



**伊勢 茜**

理学部 化学科 3年  
派遣大学：モナッシュ大学（オーストラリア）

「せっかくだから長期留学なんてどう？」とIELTSの結果をみた先生が一言。お茶大短期留学プログラム中に受験した時のことです。そんなきっかけで長期留学を考えるようになった私でしたが、実は、化学科初の長期留学生という前例のなさや経済的負担から、応募時には随分と悩みました。そんな中、私の背中を押してくれたのが、「JASSO 海外留学支援制度」です。もちろん民間奨学金はたくさんありますが、そのほとんどが一年以上前からの応募で、その中であって留学決定後に申請可能なこの奨学金は大きな助けとなりました。いざ留学してみると、モナッシュは音楽の歴史や日本のポップカルチャーなど、一味違った授業もそろっていて圧倒されます。お茶大協定校の総合大学の中では、数少ない理系科目も充実したところではないでしょうか。移民の国だけあって、オーストラリアでは、ギリシャやベトナム、中華系など、一つの国にながらにして様々な国の文化を肌で感じることができます。一方、それと同時にオーストラリアは世界の中でも物価が高い国の一つ。渡航後に改めて、奨学金のありがたさをかみしめているところです。将来は、化学のおもしろさを子供達へ伝えていくサイエンスコミュニケーション活動に従事していきたいと考えています。



**柳下 明莉**

文教育学部 グローバル文化学環 3年  
派遣大学：ロンドン大学  
東洋アフリカ研究学院（イギリス）

もっと専門的な知識を得たい。もっと自分にとって厳しい環境に身を置きたい。自分を成長させたいと思って飛び乗ってみた留学ですが、予想通りの厳しさに、自分が思うように対処できず沈むこともありました。今では、落ち込んだ時にそんな自分を面白がる余裕が出てきました。私は将来、国際協力に関する場で働きたいと考えています。SOAS ではとても豊富な選択肢の中から、興味のあるアイデンティティや、紛争に関する専門的な授業を受けることができ、とても面白いです。留学にお金がかかるのは想定してはいましたが、渡航後は更にそれを実感しています。例えばビザを申請するのに5万円、延長するのに7万円というのには驚きました。私は幸いにも「官民協働海外留学支援制度（トビタテ！留学 Japan）」という奨学金のお陰で、あまり家庭に負担をかけずに留学することができました。留学先での勉学・生活に集中できるのはとてもありがたいです。その点、奨学金システムの充実など、より多くの学生がお金の心配をせずに、留学できるサポート体制があると良いと思います。強く希望して得た交換留学というチャンス。あと残りの7か月、勉強に励み、様々な文化と人に触れることのできるSOASでの留学生生活を十二分に楽しみ、吸収できることを存分に吸収していきたいです。



**田辺 裕子**

文教育学部 言語文化学科  
英語圏言語文化コース 4年  
派遣大学：オックスフォード大学  
クィーンズカレッジ（イギリス）

私の留学したオックスフォード大学は約1000年の歴史を持つ大学で、学問的生活はとても濃いものでした。私が専攻した英文学では毎週エッセイが課され、その為に何冊もの本を読む必要がありました。講義では、教授が1時間分の原稿を用意してきて熱心に語り、また個人指導では教授や他の学生と議論をじっくり行いました。こうした素晴らしい留学生活の経済的な支えになったのは奨学金でした。近年、イギリスでは教育費が年々上がっており、国内からの反発もさることながら、非EU諸国出身の学生には破格の費用です。それに加え、物価も家賃も安くはありません。このように、意欲だけではどうにもならない経済的障壁が、海外留学にはあるのが現状です。奨学金が支えてくれるのは、留学生活の経済面だけではなく、目に見えない力を養う場でもあると痛感しています。私があつた1年で得たのは英語力だけでなく、深い思考力や広い視野だと思うからです。奨学金によって、素晴らしい環境で数字では表せない知の力を得ることができたことに大変感謝し、これからも一層研究に励みたいと強く思っています。



**小松 璃子**

理学部 博士前期課程情報科学コース 1年  
派遣大学：タンペレ大学（フィンランド）

今回私は、自身の取り組んでいる研究の技術向上や意見交換を目的として、フィンランドで2ヶ月の短期留学をしました。授業料や留学の前後でアルバイトができないことを考慮して、JASSOの「海外留学交流支援制度」に申し込みました。普段は実家で生活しているため、留学先での生活に不安がありましたが、奨学金の支給により金銭面で困ることなく、快適に過ごすことができました。また、現地での友人との食事やレジャーなども楽しむことが出来ました。研究面では、異なる文化の方からの自分の研究に対する意見や感じ方など、多くのフィードバックを頂くことができました。大学教授との議論や質疑の中で、研究の新たな側面を見出したり、未知の技術に触れる機会もあり、とても実りのある留学となりました。一方で、今回の留学を通して、日本人学生が国外の学生や教授と共同研究をする機会が少ないと感じました。日本と海外の技術を大学レベルで共有していくことで、世の中の情報技術が大きく進歩するのではないかと考えています。海外の文化や研究に目を向ける第一歩として、留学はとても良い経験となりました。多くの学生の方に積極的に留学経験をさせていただきたいと感じています。将来は、国内外を問わず、情報技術がより生活に浸透できるような社会づくりに貢献したいと考えています。

### グローバル教育センター長からのメッセージ

当センターでは、毎年多くのお茶大生を世界各地に派遣しています。留学の種類は異なりますが、学生たちが留学生活を経て、見違えるように成長して帰国し、留学の経験を生かしてさらに立派に成長してゆく姿を見ると、純粹に喜びを感じます。少しでも多くの学生が、在学中に世界へと目を開かせてくれるグローバルな経験をすることができるよう、そしてその後世界を舞台として活躍できるようにと切に願っています。



# 学生のアクティビティ

## 第4回SCC寮祭

お茶大SCC (Students Community Commons)は、「ともに住まい、ともに成長する」をコンセプトとした学生寮です。学部1、2年生を対象としていますが、3年生のレジデント・アシスタント (RA) が寮内で行われる学生支援プログラムや寮生の活動をサポートしています。学部学科の異なる5人で1つの「ハウス」を形成し、全員が寮生組織の委員会に所属しています。



10月26日(日)には「第4回SCC寮祭」が開催されました。寮祭は毎年10月に行われるSCCの行事で、4月から寮祭実行委員会を中心に準備を進めてきました。当日は各ハウスが軽食やお菓子でおもてなし、寮生もハウス間を行き来し、来場の方たちとの会話ははずみました。

来場者と寮生によるハウス企画投票も行われました。寮祭終了後ラウンジに集まり、結果発表に臨みました。接戦の末、1位になったハウスにはケーキが送られました。

### 学修プログラム発表会

学修プログラムは、お茶大の教授をSCCにお招きして講演をしていただき、その後ハウス内で課題に取り組み、発表会でハウスでの学びを共有するSCC独自のプログラムです。今回は7月に生活科学部食物栄養学科の香西みどり先生に、「調理と献立」というテーマで講演をしていただきました。課題は実習形式で、和食、洋食、正月料理等5つの献立をハウスメンバーで協力して作りました。発表会では課題に取り組む様子や感想、それぞれの料理について学んだことが報告されました。



から、SCCでの寮生活のこと、大学での学びのこと、受験勉強の相談までたくさんの質問をいただき、寮生たちも熱心に答えていました。

### 他大学学生寮ご招待

SCCでは他大学の学生寮を訪問し、寮についての意見交換や見学を行い、SCCの運営に役立てています。今年は訪問させていただいた学生寮の教職員・寮生の方々を寮祭にご招待し、交流を続けています。

### 寮生より

私の暮らしているFハウスでは、かぼちゃスープを作りました。かぼちゃは裏ごして、バターと牛乳、コンソメで味付けしたシンプルなものです。ハウスメンバーに食物栄養学科の1年生がいたので、調理や味、盛り付けにいたるまで本当に頼りになりました。

寮祭前日の夜中に飾りつけをしているときは、高校の文化祭で夜遅くまでみんなで残って準備したことをふと思い出しました。まさか大学生になってもこんな青春! なことができると思わず、眠たい目をこすりながら、メンバーと同じ思い出を共有していることが嬉しくもありました。ハウス企画の考案や飾りつけまで、メンバー全員で関わることができてよかったです。

文教育学部人文科学科哲学コース 2年  
草刈 沙季



### 女子高校生ご招待

昨年度から事前申込制で、受験を希望される女子高校生とご家族をご招待しています。今年は8組19名の方々にお越しいただきました。それぞれハウスを回りな



学修プログラムでは、羽入佐和子学長より講評をいただきました。



## 徽音祭によせて



去る11月8、9日の2日間、お茶の水女子大学にて徽音祭が開催されました。昨年の徽音祭、テーマは「秋は短し 弾けよ乙女 熱きお茶の冷めぬ間に -The 65th Anniversary-」。お耳になじみのあるフレーズをわたしたちらしくアレンジいたしました。

ました。短い秋を自分らしく楽しんでほしい、そんな想いを込めてつけたテーマです。学内装飾もテーマに合わせて和風一色で、皆様に好評でございました。両日を通して本当にたくさんの方に来場いただき、学生一同充実感でいっぱいです。

いつもは構内に入るために立ち止まらなければならないお茶大の門も、この2日間は来場者の皆さまに広く開放されました。そんなにぎやかな徽音祭の間、いつもと変わらず警護に当たってくださった守衛さん方から、「見回りをしようと思えば、人が多すぎて通れなかった。これほど人がいたのは初めてだよ」と嬉しいお言葉をいただきました。これも徽音祭、ひいてはお茶大に興味を持って、当日いらしてくださった来場者のみなさまのおかげです。本当にありがとうございました。

お茶大神輿

今年は第65回の記念の年でしたので、例年とは違った企画を用意したり、例年と同じ企画でもアレンジを施したり、来場者の方が各々徽音祭を楽しめるように工夫しました。その結果、実行委員企画への参加者数が昨年と比較して大幅に伸び、中には倍増したものもありました。毎年足を運んでくださっている方には新鮮な発見のある、今年初めて来てくださった方には弾けるようなワクワク感が伝わる、そんな徽音祭だったのではないかと考えています。

来年からまた70回、80回と回数を重ねていっても、それぞれの年に思いのこもった徽音祭が

できあがることでしょう。これまでの徽音祭を大切にしながら、これからの徽音祭を磨いていってほしいと思います。最後になりましたが、徽音祭を応援して下さるすべての皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。来年度の徽音祭も、お楽しみに！

第65回徽音祭実行委員長 備本 梨加

正門入口付近風景

水コン風景

キャンパスツアー



# 教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科の研究科長で自然・応用科学系教授の最上善広先生をご紹介します。最上先生は、大学院ではライフサイエンス専攻生命科学コース、また学部では理学部生物学科ご所属です。



## 地球重力と生命との関わりを探る

Mogami Yoshihiro  
最上 善広

### Q ご出身や本学に赴任する前について教えてください。

秋田県横手市の出身で18歳の時に東京に来ました。畑正憲(ムツゴロウ)さんの「われら動物みな兄弟」、「ムツゴロウの博士志」などのエッセイを読み、東大の動物学教室や三崎の臨海実験所にあこがれて、東大の理科2類から畑正憲さんの出身の理学部動物学教室の第1講座に入りました。学生の時は、ゾウリムシなどの水棲微生物がどうやって泳ぐかに興味を持ち、遊泳方向を調節する繊毛運動の仕組みについて調べていました。同じ研究室にいた馬場昭次先生(現お茶大名誉教授)がお茶大理学部生物学科の助教授になり、私は博士課程を終えてから、1983年に馬場研の助手に着任しました。途中、1988年3月から2年間ドイツのルール大学(ボーフム)で研究を行う機会がありましたが、それ以外はずっとお茶大におります。

### Q 先生のご専門の研究について教えてください。

専門は、動物に刺激を与えてその刺激に対する応答を見る「動物生理学」という分野です。出身の研究室が装置作りから取りかかるようなテーマを選んで研究するという主義でしたので、まだ物が何も無い新しい研究室で行う研究テーマを考える時に、「重力」の刺激を使うことを考えました。また、これまで扱っていたゾウリムシと同じ位の大きさで、まだ調べられていなかったウニの幼生がどうやって水面に向かって泳ぐ(負の重力走行行動)かに興味を持ちました。そこで、手近にあったシリコンのゴムシートとスライドグラスに簡便な遊泳観察用チャンパーを作成し、重力の方向や大きさを変えた時の泳ぎ方を調べることにしました。ストロボ撮影やビデオ記録を駆使して、繊毛打ち方をどのように調節しているかを明らかにすることで、負の重力走行性がどのようにして生じるかを明らかにしたいと考え研究を開始しました。重力の影響を調べる目的からすれば、重力を無くしたらその泳ぎはどうなるかに、興味がかかります。重力を大きくする、過重力環境は大きな遠心機で回転させることによりつくることができますが、無重力環境は簡単には作り出せません。色々な方法を使って無重力に挑戦してきましたが、最近「航空機実証重力実験(パラボリックフライト)」(右の写真)を利用しています。この方法は、物体を放り上げることによって自由落下状態を作り出すという原理を応用したものです。このような手法を用いながら、これまで、様々な細胞や生物について、重力を変化させた時の応答を調べてきました。

お茶大での最初の論文は、卒研生の3年分の実験データを精査して書いた「ウニのプルテウス幼生

に未知の重力感知のシステムがある」というものでした。それが当時、宇宙科学研究所の方の目に留まったことから、宇宙の無重力環境で行う様々な実験を計画する研究チームのメンバーに入ることになり、1986年以降の宇宙実験に関わってきました。特に発生学をテーマとした実験では、温帯産イモリの習性を利用して、宇宙で受精を行う無人化したシステムをつくることを考えました。イモリは冬眠前に交尾をし、春に貯めておいた精子を利用して産卵します。そこで、イモリを冬眠している状態で宇宙に送り、無重力になった時に自動的に温度を上げることにより、受精、産卵を開始させようというアイデアでした。この実験は1994年のコロンビア号(向井千秋宇宙飛行士)と1995年のSFU(宇宙科学研究所が主導し、HIIロケットで打ち上げた後、スペースシャトルで回収する無人衛星実験)で実際に行われ、宇宙で初めて産卵と受精、その後の発生の進行が観察されました。

パラボリックフライトで重力を減らした環境をつくるのは、1年に1回、約10日間の日程で、名古屋の小牧空港を基地として行っています。実験期間内に4回、飛行実験が行われ、約1時間の飛行時間の中で10数回のパラボリックフライトを行っています。生き物(サンプル)の調子が悪くなったり、装置が過重力で壊れたりするトラブルもあって、実際に行う難しさはありますが、興味深い結果も得られています。例えば、無重力中でのショウジョウバエの飛行で翅をたたむという行動が観察されました。ハエが遠くに飛びるときには翅を使わず、空気によって移動しているのかもしれませんが、無重力を感じた時に、その行動が現れたのではないかと考えています。無重力中では、着地ができないハエも観察されました。3次元の認識に重力が関わっている可能性が考えられます。重力に関値があるのかにも興味があります。集団で微生物が泳ぐときにできるパターン(生物対流パターン)が無重力だと消えることに着目し、どこまで重力を減らすと消えるのかを調べる実験も行っています。



馬場先生と一緒に運営してきた研究室(馬場・最上研)では研究室設立当初より、所属した学生が自己紹介ノートを記録していました。また、毎年1月に4年生がOG会を企画することになっていて、その時にOGから受け取った近況などを冊子にまとめて来ました。それらを通して、研究室の30年もの歴史をたどれることは、学生達にも私にとっても楽しみになっています。

また、馬場・最上研では、なるべく学生さんの名前を論文に載せるようにしようと決めており、これまで研究室に所属した学生の9割位の名前が論文の著者に掲載されています。卒業生がお子さんをつれて研究室を訪ねてきた際には、「お母さんの論文だよ。」と言って、子供に論文を手渡すようにしています。

ついに、最初に手作りした道具を使って実験した学生のお嬢さんが生物学科に入学してきました。3年生の実習で、母親が使った同じ道具を使って実験しているその子の姿を見た時には、感慨一入でした。お茶大に来て随分長くなったことを実感した出来事でした。

### Q お茶大についてどう思われますか。

都心で少人数の落ち着いた良い環境で勉強できるのは、とても恵まれていると思います。近くに様々な分野の先生方が集まっています。交流がしやすいという利点もあると思います。教職員と学生でペアを組んで行うテニス大会が年に何回か行われており、私自身それに参加していますが、化学科や物理学科の先生方と一緒に実験を行うきっかけにもなっています。

女子教育を女子だけじゃない女子大で行うことには、意味があると思っています。男子の団結と女子の団結の仕方は違いがあり、女子には、協力して力を出せる(密かに、井戸端会議パワーと呼んでいます)という特徴があると思うからです。全部自分でやらなくてはならないという環境の中で、女子の力をうまく引き出せるのが女子大という空間だと思います。多様性を確保する上で女子大という環境は必要だと思っています。

30年見ていて、最近の学生はまじめになったと思いますが、逆にスケールが小さくなったように思います。昔はビックリするようなデータを出したり、奔放にやっていました。もっと自分の意見を言っています。冒険をしてもいいのではないかと感じます。海外へ行くのも一皮むけるチャンスとなるかもしれないと思います。

お茶大に期待されているのは、グローバルリーダーとなる女性人材の育成です。リーダーには色々なタイプがあると思いますが、まずは集団の中で目につく存在でなければなりません。研究も含めた社会活動を通して、オリジナリティーの高い活動をしようとする、必ずしも周囲の人たちとうまくいかない場合が出てきます。そんな状況でもしっかりと自己主張をし、自分しかできないことを成し遂げてゆく。これもひとつのリーダーシップではないでしょうか。

お茶大での教育と研究を通して、学生と先生たちがひととき輝けるよう、研究科長としての任務を果たしてゆこうと思います。

文責：近藤 るみ  
(大学院人間文化創成科学研究科  
自然・応用科学系 准教授)



# 卒業生紹介

## 気負わず、「ほどほど」を信条にキャリアをつなぐ

*Konishi Masako*  
小西 雅子

東京ガス株式会社 関連事業部  
関連総務グループマネージャー

### 第二のターニングポイント

「今まで会社の一部しか知らなかったんですね!」。食の専門家として殆どすべてを見てきた。「次のステップは何だろう」と思っていた2014年4月、東京ガス関連会社68社の人事・総務を統括するグループマネージャーに任命された。このポストで初の女性だ。子会社の多岐にわたる事業を知って視野が一気に開け、見える景色が変わってきた。「第二のターニングポイントを迎えました」。

入社以来、リビングPR部門のトップになる2年前までは、「調理科学」の専門家として研究のかたわら、マスコミを通じて食の情報を広く発信してきた。「どうしてガスで料理すると美味しいのかを、科学的な根拠を基にわかりやすくお客様にお伝えすることが究極のミッション」。人気TV番組「ためしてガッテン」にも数十回と出演しては、炎と調理の関係を解説してきた。

1988年、食物科を卒業した小西さんは、「研究職」志望で東京ガスに入社した。当時はバブル期の直前。昼に面接を受けて、夕方には採用の知らせをもらった。多角化を進める会社の新規事業を支援する部署で、冷凍食品用食材の基礎研究・評価の仕事に就いた。ところが、時代は予想もつかない方向へ。バブルがはじけると事業は清算され、小西さんの仕事はなくなった。外的要因とはいえ、「存在意義が問われることになり、苦しい時期を過ごしました」と振り返る。

### 発想の転換でチャンスをつかむ

そんな時、子供を授かる。当時は育児休暇を取る人も少なく、上司からは厳しいことばがあった。「休むのはいいいけど、普通に帰ってきても席はないよ。今までの研究を博士論文にまとめるとか、皆がアツと驚くような土産がなければ歓迎できない」。仕事では泣いたことのない小西さんが、その夜はさめざめと泣いた。すぐに母校お茶大を訪ねる。8月に出産、翌年4

1988年お茶の水女子大学家政学部（現生活科学部）卒業。同年東京ガス（株）入社。都市生活研究所主幹研究員、「食情報センター」主幹、リビング営業部リビングPRグループマネージャーを経て、2014年より現職。学術博士。過去に服部栄養専門学校など数校で非常勤講師を務める。著書に『絶品土鍋ご飯の炊き方』『旬を楽しむ ラ・クチーナ・エスプレッサ』など。埼玉県出身。

月には職場復帰という超特急の日程に合わせ、指導はお茶大、審査は昭和女子大という流れが恩師の配慮で決った。1995年春、小西さんは、米の食味評価に関する基礎研究により学術博士号を取得する。昭和女子大第一号の博士となった。

30歳で育児休暇から復帰した小西さんは、仕事の流儀をがらりと変えた。「仕事はなくなっていたので、自分から食の情報ネタを作ってはメディアに発信することにしました」。「待ち」から「攻め」への転換の強力な「武器」となったのは、他でもない、「博士」の肩書だった。研究分野での博士の威力は想像をはるかに超え、「同じ資料を出しても急に話を聞いてくれるようになりました」と笑う。「産休・育休中に博士を取ったことは、私のキャリアの一度目のターニングポイント。親身になって指導をくださったお茶大の先生方、そして結果としてチャレンジに駆り立ててくれた当時の上司には、本当に感謝しています」

### 恩師の言葉を励みに

その後も、小西さんは部署を異動しながら、専門性に磨きをかけていく。「食情報センター」では、食のオピニオンリーダーとの連携を目的に設立されたスタジオの立ち上げに関わり、一方で26カ所ある一般向け料理教室の企画・運営を統括し、「食育」にも力を注いだ。著名シェフや有識者対応で、小西さんの人脈は一挙に広がった。

振り返れば、多様な機会と挑戦を与えてもら



い、成長してきた自分がある。49歳の今、「人」を育てる使命を受けて、社員にも同じようにキャリアの幅を広げる経験を提供したいと願う。

仕事、家庭、子育てのなかで、「どれもほどほどに」を信条に、「常にバランスを考えながら」やってきた。「ほどほど」とは、決して中途半端に物事をこなすことではない。平均台の上を歩くような絶妙なバランス感覚が要求される。「娘が小学校を卒業するまでは残業をしない」というルールを自らに課し、12年間貫く決断も時には必要だ。

あるとき、お茶大名誉教授の島田敦子先生に言われた。「子供が小さいときは『低空飛行』でよい。落ちない程度に仕事も家庭も頑張つて続けなさい。いつか子どもが大きくなったら思い切り大きく飛ばせよ」。恩師のこの言葉が、小西流「ほどほど」の原点だ。

文責：坪田秀子（学長特命補佐）

### わたしのオフタイム

週日は埼玉の実家で両親と共に家族全員で暮らす。週末は横浜に戻り、親子3人で過ごす生活を20年続けている。陸上部の娘さんに引っ張られ、家族全員、ジムで汗を流した後は、中華街で食事をするひとときも楽しい。

# 附属学校園からのお知らせ

## 附属中学校便り

### 第二校舎エコ改修完了 校舎の環境整備完了!



大型画面の電子黒板を使って国語の授業

平成25年11月から取りかかっていた中学校第2校舎のエコ改修が平成26年3月末に完了しました。これにより平成20年の第1校舎の耐震工事及び改修と合わせて、教室の学習環境はそれまで

に比べ、格段に快適になりました。外観はほとんど変わりませんが、内装はピカピカです。

校舎全室が冷暖房の空調完備。ガス式であるためエコであると言われています。また、廊下の照明は人感センサーにより点灯し、自動消灯です。1階・2階のトイレもぬくもりを感じられる内装です。1階の多機能トイレは、オストメイト対応になっています。

まず、今回の改修で念願だった、理科室の面積変更と実験台を更新しました。これまでは第1理科室と第2理科室は面積は差がありました。改修により2室とも

同じ面積になり、実験台も両室で同じような環境になり、調整しながら使うような不便がまったくなくなりました。

さらに、合併室と呼んでいる1学年が全員が1度に入れる教室に、最新の「スマートクラスルーム」と呼べる設備を設置しました。写真にあるように、これまでの黒板を外し、横長の大型電子黒板に変えました。3台のプロジェクターが連動し動作します。タッチペンで操作でき、大画面であるため、デジタル教科書などを使っての授業でも、これまでの大きさのスクリーンではできなかったような表示や教材の提示ができます。画像の拡大もとても大きくて鮮明であるた

### 1年生郊外園サツマイモ収穫と横浜校外学習

入学して半年経ち、学校生活にもなれてきた1年生、10月27日に東村山の大学の郊外園でサツマイモの収穫を行いました。5月に苗を植え付けたものを夏を越しての収穫です。

初めに予定した日は雨であつたため予備日での実施になりましたが、当日は秋晴れのとてもよい日和でした。「イモ掘り」というと「土に手をつこんでさぐってほいっ」という場合が多いようですが、本校の教育の柱の一つである「勤労教育」としての位置付けもあり、作業の始めは畑中におい繫ったツルを処理するところから始めます。これが一苦労。

鎌でツルを切る人、切ったツルを運ぶ人など役割分担をしながら手際よく行ってからやっと「芋掘り」です。すっかり土だけになった畑に見当を付けて両手を突っ込んで土の中を探ると、手応え。おイモがしっかり手の中に。顔はにつこり。ツルを運んだ苦勞はどこかへ行ってしまったようでした。全体の収穫はいつもより少し少なかったようですが、上手に分け合いました。どんな料理にしようかなと考えながら満足げに帰って行きました。



総務が中心となって出発前の集会

11月21日(金)に、校外学習を実施し横浜でグループ活動を中心に秋の日を楽しんできました。「総務」と呼ばれている、生徒の代表たちが、時間をかけて準備をしてきた行事の本番です。一年生だけの行事なので、総務の生徒たちの責任感もひとしおです。班ごとに行動計画を立て、協力しての活動です。行動範囲は、山下公園から中華街を始め、みなとみらい地区、いろいろな資料館や博物館、港の見える丘公園等々本当に様々でした。

必須スポットは、関帝廟と横浜開港資料館です。その間に中華街で昼食をとりましたが、各所の見学よりも生徒たちの楽しみは大きかったようです。けがなどもなく、予定通り行動を終了し、桜木町



さあ、いよいよイモを探すぞー



掘り出したイモを重いけどしっかり運ぼう



## 附属学校園での出来事 (2014年10月~12月)

### 【いずみナーサリー】

#### 10月

- 親子であそぼう会
- お父さんの会
- 避難訓練
- いずみ同窓会

#### 11月

- 避難訓練
- 「子どもの世界をのぞいてみよう PART3」COSMOS/ECCELL/ナーサリー共催
- 保育参観

### 【附属幼稚園】

#### 10月

- 中西部アフリカ幼児教育研修 幼稚園訪問
- 避難訓練
- 運動会
- サツマイモ掘り
- 4歳児親子で遊ぶ日
- PTA主催バザー お茶の市
- 附属校園連絡会芸術鑑賞会 「江戸の里神楽・江戸囃子」
- お誕生会
- 3歳児遠足(小石川植物園)
- 4歳児散歩(構内)
- ようちえんまつり

#### 11月

- お誕生会
- 避難訓練
- 5歳児大学の畑苗植え・散歩(構内)
- 創立記念の集い
- 創立記念日

#### 12月

- 誕生会
- 餅つき
- 終業式

### 【附属小学校】

#### 10月

- 芸能鑑賞会参加(2、5年)
- ケルン大学インターンシップ開始
- かがみ会バザー
- 校外学習(4年)
- 学力テスト(5年)
- 留学生との交流会(6年)
- 学年活動「秋の味覚を楽しむ」(2年)

#### 11月

- 学年活動「秋祭り」(1年)
- 避難訓練(休憩時間中)
- 校外学習(4年)
- 学年活動「都産都消みそ汁作り」(4年)
- 音楽会

#### 12月

- 入学検定
- ダイコンほり(2、5年)

### 【附属中学校】

#### 10月

- 前期期末テスト
- 前期終業式
- 秋休み
- 後期始業式
- 第4回学力テスト(3年)
- 郊外園(サツマイモ収穫)(1年)
- 生徒会選挙
- 学校説明会(1回目)
- 公開研究会

#### 11月

- 学校説明会(2回目)
- 生徒会役員任命式
- 避難訓練
- 中間テスト(3年)
- 校外学習(横浜)(1年)

#### 12月

- 中間テスト(1、2年)
- マラソン大会
- 教育後援会プレゼンテーション
- 保護者会

### 【附属高校】

#### 10月

- 国際NGOプラン・ジャパン 国際ガールズ・デー記念イベント
- 自治会選挙・総会
- 中間考査
- 学力テスト(3年)
- 公開教育研究会
- 台北研修
- ダンスコンクール

#### 11月

- 郊外園(サツマイモの収穫)(1年)
- 学力テスト(3年)
- 公開教育研究会
- 避難訓練
- 保護者授業参観

#### 12月

- 期末考査
- 東京工業大学ウインターレクチャー
- SGH自国文化理解 文楽鑑賞(2年) 歌舞伎鑑賞(1年)
- お茶大キャリアガイダンス
- SGH課題研究実践報告会(ベトナム・台北・模擬団連など)
- 家庭科特別授業 パタゴニア日本支社長講演
- 地理A特別授業 国際NGOジョイセフ講演



新しくなった理科室の実験台

め、これまで気がつかなかったような細部まで考察できます。使えば使うほど新しい使い方のアイデアがわいてくる環境で、生徒にとってわかりやすいよりよい授業が展開できると考えています。

そのほか、コンピュータ室は廊下との仕切りを可動式にすることで、部屋をより有効に活用できるようになりました。音楽室も環境整備もおこないICTやオーディオの活用がとても快適にできるようになりました。



関帝廟での記念写真

駅で解散しました。校外学習のまとめとして、報告ポスター制作や、フォトコンテストなども行い学習の成果も充分上げることができました。

これらの行事を通して一年生はさらに成長したようです。



班でまとめた報告ポスター

## 附属学校園からのお知らせ

# キャンパス点描

## 「ダイバーシティ・リーダーシップー4大陸の駐日女性大使を迎えてー」(平成26年度 A-WiL国際シンポジウム)を開催しました



2014年10月28日(火)にお茶の水女子大学主催のA-WiL国際シンポジウム(※)「ダイバーシティ・リーダーシップー4大陸の駐日女性大使を迎えてー」を本学微音堂にて開催しました。国際色も豊かな約260名の参加者がありました。

はじめに、羽入佐和子学長が主催側から挨拶し、吉田大輔氏(文部科学省高等教育局長)よりご挨拶を頂戴しました。さらに、スペシャルスピーチとして猪口邦子氏(参議院議員 元内閣府特命担当大臣(少子化、男女共同参画))より、女性がリーダーシップの地位にどのように就くべきか、女性が現在直面している問題・課題はどのようなもの

かについて、お話を頂戴しました。引き続き、駐日女性大使のまとめ役をされている駐日タンザニア連合共和国特命全権大使サロメ・タダウス・シジャオナ閣下より、駐日女性大使代表スピーチとして、パネルディスカッションにご登壇いただく5名のスピーカーについてご紹介いただきました。

アフリカ大陸からは、駐日ウガンダ共和国特命全権大使ベティ・グレース・アケチーオクワ閣下よりクォーター制や比例代表制を導入し、多くの女性がリーダーシップを発揮する役割に就いた事例をお話しいただきました。

アメリカ大陸からは、まず、駐日エルサルバドル共和国特命全権大使マルタ・リディア・セラヤンティア・シスネロス閣下より、女性の人権保護及び地位向上のためのプロジェクト「シウダ・ムヘル(女性の街)」につ



## 知と文化の交流拠点 Interactive Commons (共通講義棟2号館部分)が整備されました

10月31日(金)にお茶の水女子大学共通講義棟2号館において、「Interactive Commons」のお披露目会が行われました。

Interactive Commonsは、本学が育成を目指すグローバル女性リーダーに不可欠な資質を涵養することを目的として整備されました。

この施設は、講義用の空間としてだけでなく、国際交流活動をはじめ

め、あらゆる知的交流活動の拠点となる施設です。授業期間中はもちろん、休業期間中など時期に関係なく、使用するニーズに対応して、交流セミナーの実施回数の増加等の効果も期待されています。

なお、これを機に共通講義棟2号館201室には愛称を付けることにし、「Ocha-Hall」と名付けることにしました。ぜひご活用ください。

今後、Interactive Commonsの機能を充実させるため、共通講義棟1号館の整備も進める予定にしています。こちらもご期待ください。

201  
お茶の水女子大学  
インタラクティブホール  
(Ocha-Hall)



共通講義棟2号館101室



インタラクティブホール(Ocha-Hall) 共通講義棟2号館201室



お披露目会で説明する耳塚副学長





開会挨拶  
羽入 佐和子学長

いてお話しいただきました。続いて、駐日ハイチ共和国臨時代理大使ジュディット・エグザビエ公使参事官より、21世紀の社会変革と女性の政治参画についてお話しいただきました。

太平洋地域からは、駐日トンガ王国特命全権大使タニア・ラウマヌルベ・タラフォリカ・ツボウ閣下より、女性が政界に進出するための特別措置の必要性や、女性があらゆるレベルの意思決定に参加することを目指した取組についてお話しいただきました。

最後に、ヨーロッパ大陸からは、駐日スロベニア共和国特命全権大使

ヘレーナ・ドルノウシェク・ゾルコ閣下より、ユーゴスラビア連邦共和国、スロベニア共和国、マケドニア共和国、クロアチア共和国、ボスニア・ヘルツェゴビナにおける取組を例に挙げ、旧社会主義国や共産主義国の女性の地位向上についてお話しいただきました。

5名のスピーカーによるパネルディスカッション

を受けて、駐日南アフリカ共和国特命全権大使モハウ・ベコ閣下より、「国際ガールズ・デー」に関するスピーチとして、女性の潜在能力を發揮し、労働力として参加することを推奨し、意思決定者や明日のリーダーになれることを認識させる取組の重要性についてお話しいただきました。

パネルディスカッションでは、「知識が十分なのに、リーダーにならない女性。その解決策は？」というテーマについて、「女子に対する教



駐日女性大使代表スピーチ  
サロメ・タダウス・シジャオナ閣下  
(駐日タンザニア連合共和国特命全権大使)



スピーチ  
モハウ・ベコ閣下  
(駐日南アフリカ共和国特命全権大使)

育が必要」、「女子に対して自信を与える際、また、リーダーになるための自信というのは教育が重要」、「教育だけでは不十分、政策を変えていかなければならない」、「ジェンダー平等のアジェンダを推進していかなければならない」など、多様な意見が取り交わされました。

さらに、活発な質疑応答が行われ、聴衆として参加した女子学生に対して、多くの提言がなされました。

参加者からは全体を通して、「『努力すること』『チャンスを逃がすな』といった学生へのメッセージが力のこもったもので、いずれも心に響くものであった」、「ダイバーシティ リーダーシップには、教育、目標、自信、熱意が大切だと改めて感じさせられた」などの意見をいただき、シンポジウムは盛会裏のうちに終了しました。

※A-WiLは、お茶の水女子大学の事業「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」(文部科学省特別経費 平成22年度～27年度)の略称で、その英語名「International Research Program for the Advancement of Women in Leadership」に基づいています。



パネルディスカッションの様子



会場の様子

## お茶の水女子大学と奈良女子大学とが「理系女性教育開発共同機構」等を設置し、理工系女性リーダー育成拠点を構築します

お茶の水女子大学と奈良女子大学は、平成26(2014)年度文部科学省「国立大学改革強化推進補助金」の対象事業として採択され、標記事業を共同で推進致します。

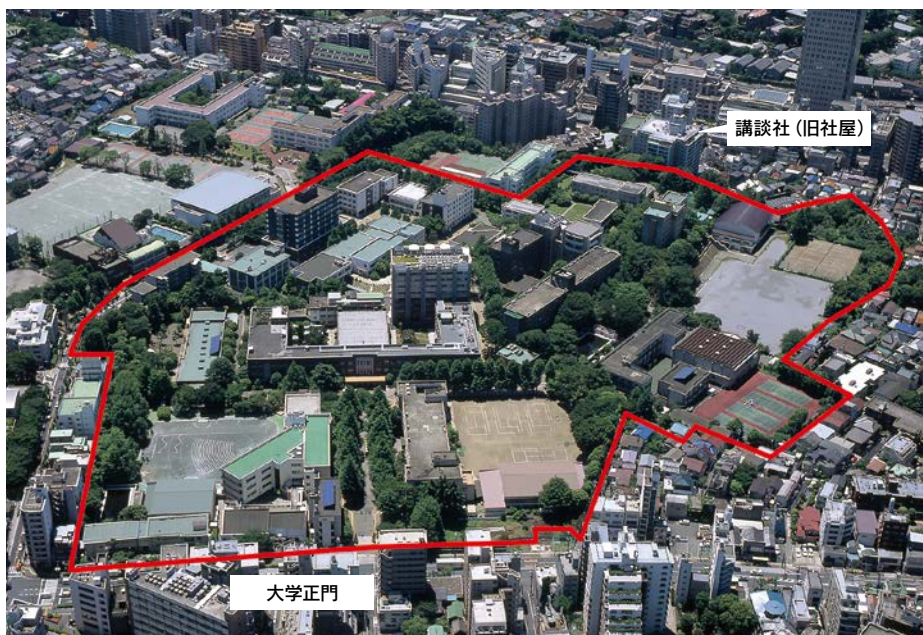
文部科学省「国立大学改革強化推進補助金」は、国際的な知の競争が激化する中で、大学の枠を超えた連携の推進や個性・特色の明確化などを通じて、国立大学の改革強化を推進するために創設された補助金です。

お茶の水女子大学と奈良女子大学は、以下の取組を2本柱として、理工系女性リーダー育成拠点の構築に取り組みます。

1. 「理系女性教育開発共同機構」の設置と、理系人材育成教育プログラムの開発
2. 「生活工学共同専攻(仮称)」(設置認可申請準備中)の設置と、女性の強みを活かした生活者の視点からの工学の推進

# お茶の水女子大学 140 周年

—— 現在と昭和 11 年頃の様子 ——



お茶の水女子大学キャンパス航空写真 平成16年6月10日現在



本館 (現在)

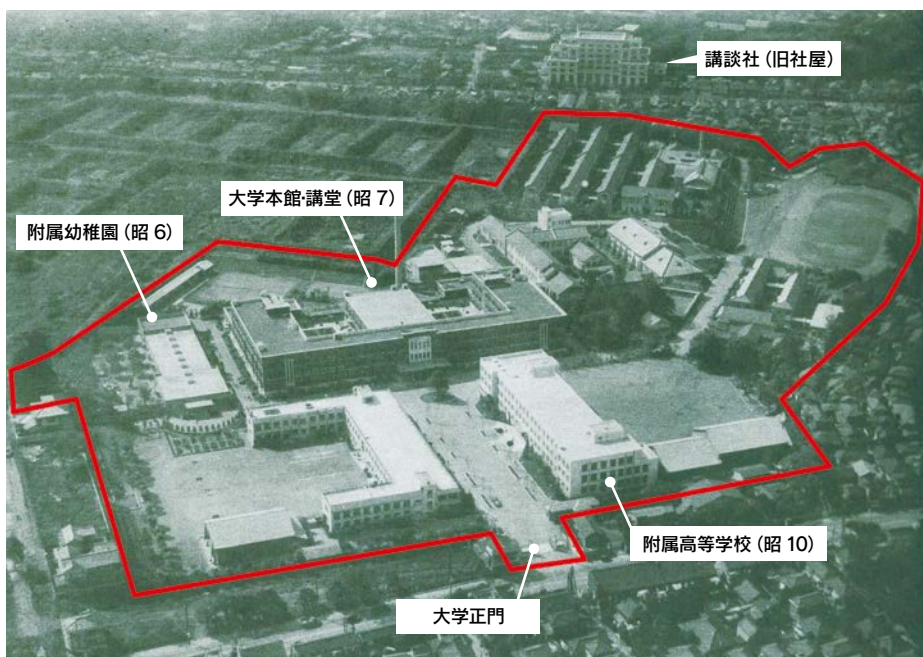
コンピュータを使用した授業

留学風景

徽音堂内観

サマープログラム

パーゴラ



東京女子高等師範学校時代のキャンパス航空写真 昭和 11 年頃



みがかずば

物理実験室

授業風景

割烹教室

お茶の水女子大学学報 第 243 号

▽発行日 : 2015 年 1 月 13 日

▽発行 : 国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL : http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、  
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。